

米国 製造業の景況は世界的な改善のなか良好(13年11月ISM製造業景気指数)

発表日：2013年12月2日（月）

～新規受注・生産・雇用が拡大する一方で、インフレ圧力は低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
12/12	50.2	49.7	52.6	51.9	43.0	53.7	48.5	55.5	51.5	51.5
13/01	53.1	53.3	53.6	54.0	51.0	53.6	47.5	56.5	50.5	50.0
13/02	54.2	57.8	57.6	52.6	51.5	51.4	55.0	61.5	53.5	54.0
13/03	51.3	51.4	52.2	54.2	49.5	49.4	51.0	54.5	56.0	54.0
13/04	50.7	52.3	53.5	50.2	46.5	50.9	53.0	50.0	54.0	55.0
13/05	49.0	48.8	48.6	50.1	49.0	48.7	48.0	49.5	51.0	54.5
13/06	50.9	51.9	53.4	48.7	50.5	50.0	46.5	52.5	54.5	56.0
13/07	55.4	58.3	65.0	54.4	47.0	52.1	45.0	49.0	53.5	57.5
13/08	55.7	63.2	62.4	53.3	47.5	52.3	46.5	54.0	55.5	58.0
13/09	56.2	60.5	62.6	55.4	50.0	52.6	49.5	56.5	52.0	55.0
13/10	56.4	60.6	60.8	53.2	52.5	54.7	51.5	55.5	57.0	55.5
13/11	57.3	63.6	62.8	56.5	50.5	53.2	54.0	52.5	59.5	55.0

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

ISM製造業景気指数 は57.3と前月比0.9% ポイント上昇

13年11月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、57.3と市場予想の低下に反し前月比+0.9%ポイント上昇し、11年4月以来の高水準となった(市場予想中央値55.0、当社予想54.7)。自動車関連や住宅関連の需要拡大、海外需要回復の動き等を背景に、製造業部門の拡大ペース加速が示された。また、拡大した業種が増加しており、広がりを持った上昇となっている。そのような中で、インフレ圧力の低下も示されている。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、在庫(前月比▲0.4%ポイント)のほか、入荷遅延(前月比▲0.3%ポイント)がマイナス寄与となった一方、雇用(前月比+0.7%ポイント)、新規受注(前月比+0.6%ポイント)、生産(前月比+0.4%ポイント)が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+0.9ポイント上昇した。10月とは異なり重要な新規受注、生産、雇用が加速するなかで、在庫、入荷遅延が減速したほか、新規受注・在庫比率が上昇し水準を切り上げており、製造業部門は良好な状況となっている。

活動の拡大した業種は 15業種と前月より1業 種増加

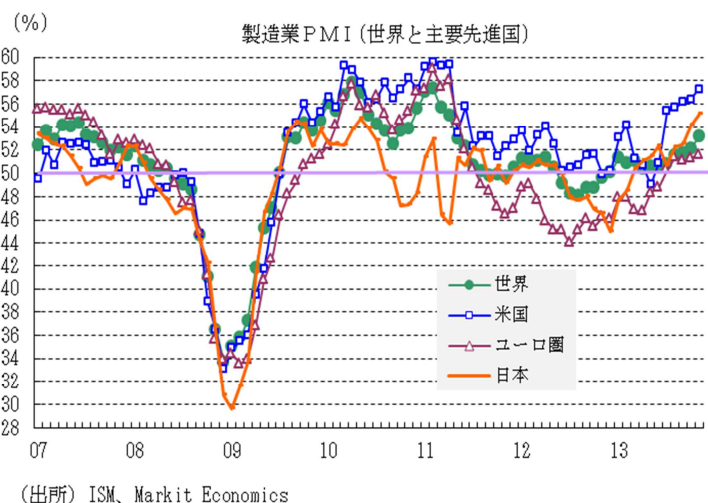
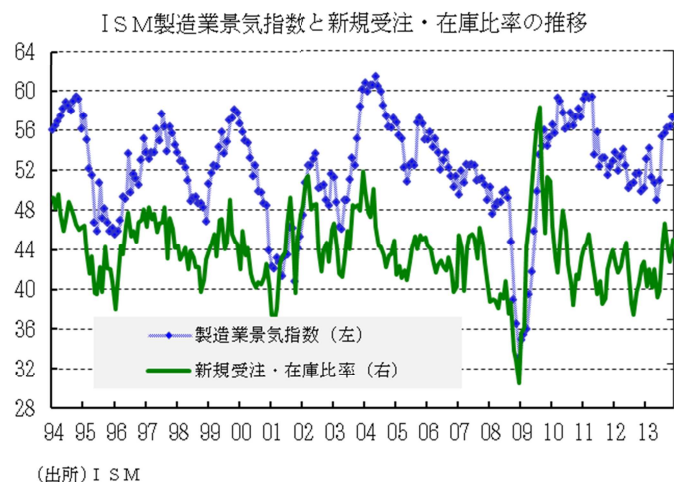
活動の拡大した業種数は、全18業種中15業種(前月14業種)と増加した。拡大した業種(拡大を続けた業種には下線)は、プラスチック・ゴム、繊維、家具・同関連製品、一次金属、食品・飲料・タバコ、紙製品、印刷・同関連支援、石油・石炭、その他製造業、電気装置・同機器・同部品、輸送機械、化学製品、コンピューター・電子機器、非鉄、加工金属。

一方、縮小した業種は、アパレル・皮革・同製品、一般機械、木材製品の3業種(前月4業種)に減少した。

(注) 下線は拡大を続けた業種

今後、ISM製造業景気指数は当面現在の水準を維持する見込み

今後に関しては、緊縮財政など財政政策に関連する先行き不透明感が残存するものの、米国企業が過剰な在庫や雇用を抱えていないほか、自動車、住宅関連主導で緩やかに成長する国内需要、持ち直しを示す世界経済などに下支えされ、ISM製造業景気指数は当面現状水準で推移すると見込まれる。



輸出が緩やかに拡大することを示唆

輸出受注DIは、11月に59.5と前月比+2.5%ポイント上昇したうえ、拡大縮小の分岐点である50を12ヵ月連続で上回った。世界的な景気回復の動き等を背景に、輸出の拡大ペース加速が示唆されている。

各国の米国向け輸出は増加基調を維持

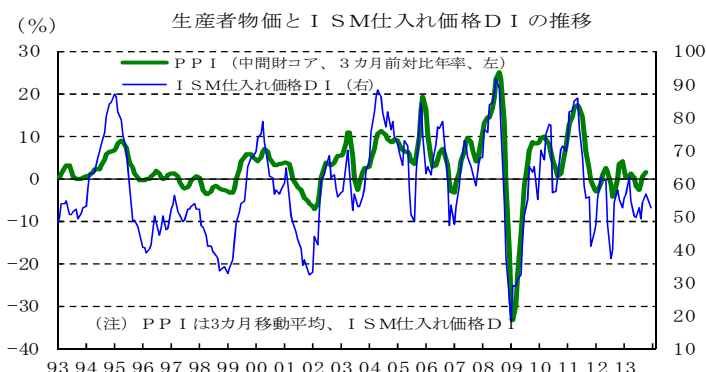
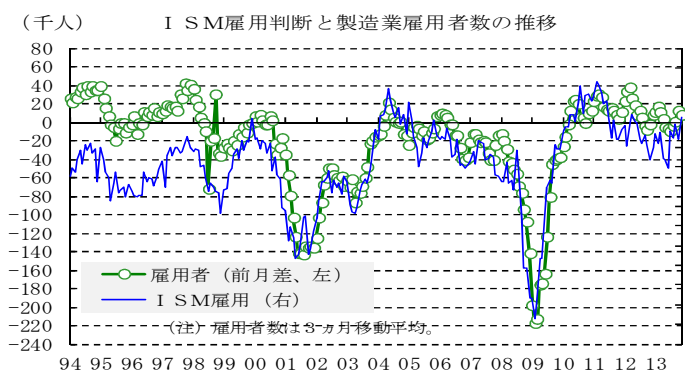
輸入DIは、11月に55.0と前月比▲0.5%ポイント低下したものの、拡大縮小の分岐点である50を上回り比較的高い水準を維持していることから、日本など先進国、BRICS等の新興国の米国向け輸出の拡大持続を示唆している。

雇用DIは11月の製造業雇用の増加ペースの小幅加速を示唆

雇用DIは、11月に56.5と前月比+3.3%ポイントと上昇したうえ、3ヵ月移動平均でも上昇しており、製造業部門雇用者数（3ヵ月移動平均）の増加ペースの小幅加速を示している。ただし、米国経済や政策の先行き不透明感、価格競争の激化によるコスト削減圧力を背景に、製造業部門での雇用の回復ペースは鈍い状況が続く見込み。

仕入価格DIは川中でのインフレ圧力の弱まりを示す

仕入価格DIは、エネルギーなどの価格低下によって、11月に52.5と前月比▲3.0%ポイント低下したうえ、水準も低いことから、川中でのインフレ圧力は弱まっている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。